

庄原法人協で水稻密播疎植栽培現地研修会を開催

【平成 29 年 8 月 28 日掲載】

庄原地域集落法人連絡協議会（加藤政利（かとうまさとし）会長，会員 30 法人）は，8 月 7 日に庄原市口和町の（農）ファーム永田（永奥 啓（ながおくはじめ）組合長，構成員 35 名）の圃場において，水稻密播疎植栽培研修会を開催し，17 法人 24 名が参加しました。

研修会では，北部農業技術指導所から水稻密播栽培技術のポイントと展示圃の概要を説明し，現地圃場におけるコシヒカリの生育状況を見学しました。水稻密播疎植栽培展示圃では，10 a 当たり苗箱数 7.8 箱で田植しており，苗箱数を慣行栽培の 4 割削減しています。苗箱へは慣行 2 倍である 300 g / 箱を播種していますが，苗の生長についても慣行栽培と比べ差はありませんでした。

展示圃を設置した（農）ファーム永田からは，「田植の際，苗箱を運ぶ労力が軽減され，生育も慣行栽培と差がない。今後も省力低コスト技術に積極的に取り組んでいきたい。」と話されました。参加法人からは，既存の田植機を用いて密播苗を田植する際のポイントについて質問が出ました。

今後，庄原地域集落法人連絡協議会では，法人経営の安定に向けて，低コスト技術導入等，積極的に推進していくこととしています。



【展示圃設置状況（5 月 19 日）】



【展示圃生育状況（左：密播区）】

情報提供元

北部農業技術指導所